

【10】摩訶迦葉の活動地

[0] 以上に紹介してきた資料によって、摩訶迦葉の活動地がどういうところであったのかを調査してみたい。

[1] これを資料順に掲げてみると次のようになる。なお（ ）の中に記入したのは、例えば当該経の釈尊がその場所におられて、摩訶迦葉の所在場所は示さないものであり、下線を施したのは、摩訶迦葉の所在場所であるけれども、例えば喪主として要請に応じて赴いた場所であって、必ずしも摩訶迦葉の活動地とは考えられないというようなものである。またパーリの Atthakathā はその本経の所在を示した。なお < > の中には筆者の判断で所在場所の国と都市を記入した。

(1) 釈尊の入滅を知る。火葬の薪に自然に火がつく。

- <1-1> パーヴァー (Pāvā) からクシナーラー (Kusinārā) に至る道
- <1-2> 波婆国から拘尸城に来るところ
- <1-3> 鳩夷那竭城の方に来ようとしていた
- <1-4> 波旬から来るところ
- <1-5> 鐸叉那耆利國 <?>
- <1-6> パーパーからクシナガリーに向かっていた
- <1-7> パーヴァー (Pāvā) からクシナーラー (Kusinārā) に至る道
- <1-8> 波婆と拘尸城の間
- <1-9> 毘舍離の彌猴水辺の重閣講堂 <ヴァッジ国・ヴェーサーリー>
波旬国から拘夷城に向かう中間
- <1-10> 波婆城から拘尸城に行こうとしてその中間
- <1-11> 耆闍崛山の寶鉢羅山窟 <マガダ国・王舎城>
拘尸那竭
- <1-1> 王舎城羯蘭鐸迦池竹林園 <マガダ国・王舎城>
沙羅林
- <1-2> 波婆國
- <1-3> 王舎城 <マガダ国・王舎城>
- <1-4> 道をやって来た
- <1-5> クシナーラーに遠くないところ

(2) 頭陀行を尊ぶ

- <2-1> 牛角娑羅林 (Gosiṅgasālanadāya) <ヴァッジ国・?>
- <2-2> 跋耆瘦の牛角娑羅林 <ヴァッジ国・?>
- <2-3> 跋耆国牛師子園 <ヴァッジ国・?>
<2-1> 越祇音声叢樹<ヴァッジ国・?>

(3) 摩訶迦葉のグループは頭陀説者

- <3-1> (世尊は王舎城耆闍崛山)
- <3-2> (世尊は王舎城迦蘭陀竹園)

- 〈3-3〉 (世尊は舎衛国祇樹給孤独園)
- (4) 摩訶迦葉はどのような衣食にも満足する者
 - 〈4-1〉 (世尊は舎衛城)
- (5) 舎利弗が摩訶迦葉に質問する
 - 〈5-1〉 バーラーナシーの仙人墮処・鹿野苑 〈カーシ国・バーラーナシー〉
- (6) 在家に近づくに摩訶迦葉を模範とせよ
 - 〈6-1〉 (世尊は舎衛城)
 - 〈6-2〉 (世尊は王舎城迦蘭陀竹園)
 - 〈6-3〉 (世尊は王舎城迦蘭陀竹林)
 - 〈6-4〉 (世尊は王舎城迦蘭陀竹林精舎)
- (7) 乞食するに摩訶迦葉を模範とせよ
 - 〈7-1〉 (世尊は舎衛城)
 - 〈7-2〉 (世尊は舎衛城祇樹給孤独園)
 - 〈7-3〉 (世尊は舎衛国祇樹給孤独園)
- (8) 釈尊は老年の迦葉に糞掃衣を捨てるよう勧める。頭陀行を賛嘆される。
 - 〈8-1〉 王舎城 〈マガダ国・王舎城〉
 - 〈8-2〉 舎衛城東園鹿子母講堂 〈コーサラ国・舎衛城〉
 - 〈8-3〉 舎衛国旧園林毘舎佉講堂 〈コーサラ国・舎衛城〉
 - 〈8-4〉 羅闍城の阿蘭若 〈マガダ国・王舎城〉
 - 〈8-5〉 舎衛城祇樹給孤独園 〈コーサラ国・舎衛城〉
 - 〈8-1〉 東園鹿子母舎 〈コーサラ国・舎衛城〉
 - 〈8-2〉 不明
 - 〈8-3〉 不明
- (9) 説法せよという釈尊の命を断る①
 - 〈9-1〉 王舎城竹林の世尊を訪ねる 〈マガダ国・王舎城〉
 - 〈9-2〉 舎衛城東園鹿子母講堂 〈コーサラ国・舎衛城〉
 - 〈9-3〉 舎衛国旧園林毘舎佉講堂 〈コーサラ国・舎衛城〉
 - 〈9-1〉 七葉窟 〈マガダ国・王舎城〉
 - 〈9-2〉 不明
- (10) 説法せよという釈尊の命を断る②
 - 〈10-1〉 王舎城竹林園の世尊を訪ねた 〈マガダ国・王舎城〉
 - 〈10-2〉 舎衛城東園鹿子母講堂 〈コーサラ国・舎衛城〉
 - 〈10-3〉 舎衛国旧園林毘舎佉講堂 〈コーサラ国・舎衛城〉
- (11) 説法せよという釈尊の命を断る③
 - 〈11-1〉 王舎城竹林栗鼠養餌所の世尊を訪ねた 〈マガダ国・王舎城〉
 - 〈11-2〉 舎衛城東園鹿子母講堂 〈コーサラ国・舎衛城〉
 - 〈11-3〉 舎衛国旧園林毘舎佉講堂 〈コーサラ国・舎衛城〉
- (12) 摩訶迦葉は釈尊と同じ禅定と神通力を得ている。世尊半座を分かたれる。
 - 〈12-1〉 (世尊は舎衛城)

- 〈12-2〉 不明
- 〈12-3〉 舍衛国の阿練若処 <コーサラ国・舍衛城>
- 〈12-4〉 舍衛国の辺遠処 <コーサラ国・舍衛城>
- 〈12-5〉 不明
- 〈12-6〉 不明
- 〈12-1〉 祇園精舎 <コーサラ国・舍衛城>
- 〈12-2〉 不明
- (13) 比丘尼に説法して侮辱される
 - 〈13-1〉 舍衛国祇樹給孤独園 <コーサラ国・舍衛城>
 - 〈13-2〉 王舎城耆闍崛山 <マガダ国・王舎城>
 - 〈13-3〉 王舎城耆闍崛山 <マガダ国・王舎城>
 - 〈13-1〉 舍衛国祇樹給孤独園 <コーサラ国・舍衛城>
- (14) 阿難を童子のごとしと非難する。もと外道との非難。出家の因縁。糞掃衣の交換。世尊の嗣子。
 - 〈14-1〉 王舎城竹林栗鼠養餌所 <マガダ国・王舎城>
 - 〈14-2〉 王舎城耆闍崛山 <マガダ国・王舎城>
 - 〈14-3〉 王舎大城耆闍崛山 <マガダ国・王舎城>
 - 〈14-4〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
 - 〈14-1〉 不明
 - 〈14-2〉 王舎城竹林栗鼠養餌所 <マガダ国・王舎城>
 - 〈14-3〉 王舎城とナーランダの途中にあるニグローダ樹林 (多子溶樹林) <マガダ国・多子塔>
 - 〈14-4〉 不明
 - 〈14-5〉 多子塔 <マガダ国・多子塔>
 - 〈14-6〉 不明
 - 〈14-7〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
摩竭提国・若致林中・尼駒樹王 <マガダ国・?>
 - 〈14-8〉 不明
 - 〈14-9〉 パフプトラカ (多子塔) <マガダ国・多子塔>
 - 〈14-10〉 多子野沢 <マガダ国・多子塔>
 - 〈14-11〉 子兜婆 <マガダ国・多子塔>
 - 〈14-12〉 摩伽陀国の摩伽陀聚落・那荼陀村王舎大城に至って多子神祇 <マガダ国・多子塔>
 - 〈14-13〉 王舎城多子塔 <マガダ国>
- (15) 舍利弗が無記について摩訶迦葉に質問する
 - 〈15-1〉 バラナシの仙人墮処鹿野苑 <カーシ国・バーラーナシー>
 - 〈15-2〉 耆闍崛山 <マガダ国・王舎城>
 - 〈15-3〉 耆闍崛山 <マガダ国・王舎城>
- (16) 釈尊が摩訶迦葉に正法と像法を説かれる

- 〈16-1〉 舍衛城祇樹給孤独園の釈尊を訪れた <コーサラ国・舍衛城>
- 〈16-2〉 舍衛城東園鹿子母講堂 <コーサラ国・舍衛城>
- 〈16-3〉 舍衛国旧園林毘舍佉講堂 <コーサラ国・舍衛城>
- (17) 釈尊が摩訶迦葉の病氣を見舞われる
 - 〈17-1〉 ピッパリ窟 (Pipphaliguhā) <マガダ国・王舎城>
 - 〈17-1〉 耆闍崛山 <マガダ国・王舎城>
- (18) 頭陀行第一
 - 〈18-1〉 不明
 - 〈18-2〉 (世尊は舍衛国祇樹給孤独園)
 - 〈18-3〉 舍衛国祇樹給孤独園 <コーサラ国>
 - 〈18-4〉 (世尊は舍衛国祇樹給孤独園)
 - 〈18-5〉 不明
 - 〈18-6〉 不明
 - 〈18-1〉 牛角娑羅林 (Gosīngasālavanadāya) <ヴァッジ国・?>
 - 〈18-2〉 逝多林給孤独園 <コーサラ国・舍衛城>
 - 〈18-3〉 不明
 - 〈18-4〉 不明
 - 〈18-5〉 不明
- (19) 貪欲などの十法を捨てよと説く
 - 〈19-1〉 王舎城竹林迦蘭陀迦園 <マガダ国・王舎城>
- (20) 釈尊が頭陀行を讃められる
 - 〈20-1〉 (世尊は舍衛国祇樹給孤独園)
- (21) 摩訶迦葉は娑羅門
 - 〈21-1〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
- (22) 摩訶迦葉の紹介
 - 〈22-1〉 羅閱城 <マガダ国・王舎城>
 - 〈22-1〉 不明
- (23) 法を付嘱される
 - 〈23-1〉 舍衛国祇樹給孤独園
 - 〈23-1〉 不明
 - 〈23-2〉 王舎城
 - 〈23-3〉 不明
 - 〈23-4〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
 - 〈23-5〉 不明
 - 〈23-6〉 不明
 - 〈23-7〉 不明
 - 〈23-8〉 不明
 - 〈23-9〉 不明
 - 〈23-10〉 不明

- (24) 入定して滅度を取らず
 - 〈24-1〉 舍衛国祇樹給孤独園
 - 〈24-2〉 摩竭國界の毘提村中の山中に入定 <マガダ国・毘提村>
 - 〈24-1〉 鶏足山 <マガダ国・鶏足山>
 - 〈24-2〉 不明
 - 〈24-3〉 不明
 - 〈24-4〉 王舎城の乞食から帰って鶏足山 <マガダ国・鶏足山>
 - 〈24-5〉 不明
 - 〈24-6〉 不明
 - 〈24-7〉 不明
- (25) 迦葉は過去の諸仏の声聞より勝れる
 - 〈25-1〉 (世尊は舍衛国祇樹給孤独園)
- (26) 摩訶迦葉の妻の物語
 - 〈26-1〉 (世尊は舍衛国祇樹給孤独園)
 - 〈26-1〉 不明
 - 〈26-2〉 不明
- (27) 貧民街を乞食する
 - 〈27-1〉 ピッパリ窟 (Pipphaliguhā) <マガダ国・王舎城>
 - 〈27-2〉 不明
 - 〈27-1〉 逝多林の世尊を訪ねる <コーサラ国・舍衛城>
- (28) 帝釈天が摩訶迦葉に供養する
 - 〈28-1〉 ピッパリ窟 <マガダ国・王舎城>
 - 〈28-1〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
 - 〈28-2〉 逝多林
- (29) 摩訶迦葉の偈
 - 〈29-1〉 不明
 - 〈29-2〉 不明
 - 〈29-3〉 不明
 - 〈29-4〉 不明
- (30) ブツダの相続者
 - 〈30-1〉 不明
 - 〈30-2〉 不明
 - 〈30-3〉 不明
 - 〈30-1〉 ピッパリ窟 <マガダ国・王舎城>
 - 〈30-2〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
 - 〈30-3〉 不明
- (31) バッダー・カピラーニー比丘尼の偈
 - 〈31-1〉 不明
- (32) 「無主作房戒」(僧残 006) の制戒因縁

- 〈32-1〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
 アーラヴィー <アーラヴィー国>
- 〈32-2〉 摩竭國 <マガダ国>
 曠野城 <アーラヴィー国>
- 〈32-3〉 阿荼髀邑 <アーラヴィー国>
- 〈32-4〉 阿羅毘國 <アーラヴィー国>
- 〈32-1〉 アーラヴィー <アーラヴィー国>
- 〈32-2〉 祇園精舎 <コーサラ国・舎衛城>
- (33) 阿難との関係
 - 〈33-1〉 不明
 - 〈33-1〉 王舎城
 - 〈33-2〉 第1結集の場所 (王舎城・畢鉢羅巖) <マガダ国・王舎城>
- (34) 2人同時の授具足戒制定の因縁
 - 〈34-1〉 不明
- (35) 「不失衣界設定」制定の因縁
 - 〈35-1〉 アンダカヴィンダ (Andhakavinda) から王舎城の布薩に参加する <マガダ国・王舎城>
 - 〈35-2〉 耆闍崛山 <マガダ国・王舎城>
 - 〈35-3〉 王舎城耆闍崛山 <マガダ国・王舎城>
 - 〈35-1〉 王舎城西尼迦窟 <マガダ国・王舎城>
- (36) 疎に縫うことの許可の因縁
 - 〈36-1〉 不明
- (37) 第1結集を主宰する
 - 〈37-1〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
 - 〈37-2〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
 - 〈37-3〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
 - 〈37-4〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
 - 〈37-5〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
 - 〈37-6〉 不明
 - 〈37-7〉 不明
 - 〈37-8〉 王舎城
 - 〈37-1〉 王舎城の七葉崛 <マガダ国・王舎城>
 - 〈37-2〉 王舎城の畢鉢羅巖 <マガダ国・王舎城>
 - 〈37-3〉 王舎城・先底槃那波羅山の禪室 <マガダ国・王舎城>
 - 〈37-4〉 王舎城耆闍崛山竹林精舎 <マガダ国・王舎城>
 - 〈37-5〉 耆闍崛山・帝釈巖 <マガダ国・王舎城>
- (38) 「長衣戒」 (『四分律』捨墮 001) の制戒因縁
 - 〈38-1〉 不明
 - 〈38-1〉 王舎城側の阿蘭若 <マガダ国・王舎城>

- (39) 「長鉢戒」 (『四分律』捨墮 021) の制戒因縁
 - 〈39-1〉 不明
- (40) 「不受食戒」 (『五分律』墮 021) の制戒因縁
 - 〈40-1〉 不明
- (41) 「謗廻衆利物戒」 (『五分律』墮 080) 制定の因縁
 - 〈41-1〉 (世尊は舎衛城)
 - 〈41-2〉 (世尊は舎衛城)
- (42) 神通禁止制定の因縁
 - 〈42-1〉 王舎城 <マガダ国>
- (43) 儉羅難陀比丘尼との関係
 - 〈43-1〉 (世尊は舎衛国)
 - 〈43-2〉 耆闍崛山 <マガダ国・王舎城>
 - 〈43-3〉 靈鷲山 <マガダ国・王舎城>
 - 〈43-4〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
 - 〈43-5〉 靈鷲山 <マガダ国・王舎城>
 - 〈43-6〉 (世尊は舎衛城)
 - 〈43-7〉 (世尊は舎衛城)
 - 〈43-8〉 (世尊は舎衛城)
 - 〈43-9〉 (世尊は舎衛城)
 - 〈43-1〉 東園鹿子母舎 <コーサラ国・舎衛城>
 - 〈43-2〉 鹿子母東林住処 <コーサラ国・舎衛城>
 - 〈43-3〉 (縁処は室羅伐城)
 - 〈43-4〉 (縁処は室羅伐城)
 - 〈43-5〉 (縁処は室羅伐城)
 - 〈43-6〉 (縁処は室羅伐城)
- (44) 「水中戯戒」 (『十誦律』波夜提 064) 制定の因縁
 - 〈44-1〉 (世尊は舎衛城)
- (45) 夏安居中の施衣の扱い
 - 〈45-1〉 波羅利弗城擁園 <マガダ国・パータリプッタ>
- (46) 使淨人主制定の因縁
 - 〈46-1〉 耆闍崛山 <マガダ国・王舎城>
- (47) 手巾拭制定の因縁
 - 〈47-1〉 靈鷲山 <マガダ国・王舎城>
- (48) 受具足戒の種類
 - 〈48-1〉 (世尊は王舎城)
 - 〈48-2〉 不明
 - 〈48-1〉 不明
 - 〈48-2〉 不明
 - 〈48-3〉 不明

- 〈48-4〉 不明
- 〈48-5〉 不明
- 〈48-6〉 不明
- 〈48-7〉 不明
- 〈48-8〉 不明
- 〈48-9〉 不明
- (49) 大威徳ある摩訶迦葉
 - 〈49-1〉 (世尊は舎衛城)
- (50) マートリカーを知る者
 - 〈50-1〉 不明
 - 〈50-2〉 不明
- (101) 120歳の寿命を有する
 - 〈101-1〉 不明
- (102) 摩訶迦葉の及ばぬこと
 - 〈102-1〉 ピッパリ窟<マガダ国・王舎城>
- (103) 無執着であること
 - 〈103-1〉 王舎城 (摩訶迦葉には親族や支援者が多い) <マガダ国・王舎城>
- (104) 摩訶迦葉は世尊の足下に坐る
 - 〈104-1〉 不明
- (105) 摩訶迦葉の共住弟子が強盗になる
 - 〈105-1〉 不明
- (106) 迦葉を「大」迦葉と呼ぶ所以
 - 〈106-1〉 不明
 - 〈106-2〉 不明
 - 〈106-3〉 不明
- (107) 愚者と伴ってはならない
 - 〈109-1〉 王舎城 <マガダ国・王舎城>
- (108) 摩訶迦葉の出家時期
 - 〈108-1〉 (仏は舎衛城)
- (109) 摩訶迦葉の仲のよい二人の共住弟子
 - 〈109-1〉 (世尊は祇園精舎)
- (110) 「絵を画くべからず」の因縁
 - 〈107-1〉 不明
- (111) 畢鉢羅窟に住む
 - 〈111-1〉 畢鉢羅窟 <マガダ国・王舎城>
- (112) まだ如来が出世していないときに実法に入る
 - 〈112-1〉 不明
- (113) 五大精舎を経営す
 - 〈114-1〉 耆闍崛山精舎 <マガダ国・王舎城>

竹林精舎 <マガダ国・王舎城>

[2] 以上のうち、下線を施したものの、() の中に記入したものを除外して、統計をとってみると次のようになる。

国・都市	A 文献		B 文献		計	
	件数	%	件数	%	件数	%
マガダ国 王舎城	37	55.2	27	54.0	64	54.7
他	3	4.5	10	20.0	13	11.1
コーサラ国 舎衛城	17	25.4	10	20.0	27	23.1
ヴァッジ国 ヴェーサーリー	1	1.5			1	0.9
他	2	3.0	2	4.0	4	3.4
他	7	10.5	1	2.0	8	6.8
合 計	67	100.0	50	100.0	117	100.0

上記の表には相応経が複数ある場合そのすべての地名を累計している。相応経があるということは、われわれの資料観から言えば資料水準が高いということであり、それはそれなりに数字に表れて然るべきであろうと考えたからである。ただし上記は単純な集計であるから、より正確にはさまざまな分析が必要であるが、一応の傾向を推測することは許されるであろう。これによると A 文献・B 文献ともにマガダ国が 60% を越えるから、摩訶迦葉の主な活動の拠点とした場所はマガダ国の王舎城周辺であったといえることができるであろう。

ちなみに原始仏教聖典における釈尊の活動地は、正確には現在進行中の金子芳夫研究分担者が担当する【資料集 2】「原始仏教聖典の仏在処・説処一覧」の完成を待たなければならないが、しかし既刊の 4 冊を見ていただくだけでも舎衛城を含むコーサラ国が圧倒的多数、恐らく 7 割くらいは占めるであろうことは一目瞭然である。したがってこの摩訶迦葉の活動分布は原始仏教聖典の一般的な地域分布を反映したものではないと言えるであろう。

以上のように摩訶迦葉の主たる活動地が王舎城であったことは、次節において考察するように、その出身地と重なるであろう。出家修行者は地縁血縁を離れてこそその出家であるが、しかし仏教の出家者は自ら生産活動も経済活動も行えなかったから、生活のためには、特に雨安居を過ごすためには安定した外護者が必要で、そのためには地縁・血縁のあるところが自ずからの主活動地にならざるを得なかったであろう。恐らくこの数字にはそういうものが表われているものと考えられる。

また彼が住していたとされるピッパリ窟は、〈106-1〉 *Udāna-A* によればその洞窟の前にピッパリ樹が生えていたからとされるが、そもそもピッパリという彼の名前はこのピッパリという樹の名にちなんでつけられたものであるから、摩訶迦葉が好んで住したところであるがゆえに、その名がつけられたのかも知れない。